

VB2010クライシスの実態とソリューション

あなたの会社のコンピュータが寿命で動かなくなるリスクとは？

[第1回]

VB2010クライシスの実態を知ろう！

<2000年問題との違い>



納富 誠治 | Noutomi Seiji

BBC (ベストブレインコンサルタント) グループ代表

■1971年大分大学経済学部卒。同年(株)日立製作所入社。世界初の3モーター3ヘッドカセットデッキD-4500を企画し成功する。80年独立し、(株)すかいらーくの社長プレーンとなり、81年同社経営顧問に就任すると同時に、現日本システムデザイン(株)を設立し、代表取締役社長に就任。日本初の経営・情報システムデザイナーとして、経営指導と情報システムデザインの両方を実行できる第一人者。すかいらーく、バンダイ、クイーンズ伊勢丹、堀場製作所等、100社を超える企業を指導し、現在に至る。著書に『省脳化システムリデザイン』等がある。

本連載の開始に当たってー

2000年という節目にコンピュータが動かなくなるといことについて、当時のメディアが大騒ぎしたことを覚えておられる方は多いと思う。実は今、その問題と同様な事態が起きつつあり、深く潜行していて、顕在化するのを恐れながら進行している。

本連載では、2010年に大きく顕在化すると思われる多くの企業や団体のコンピュータが動かなくなるかもしれないという大問題を取り上げる。その原因であるVB (ビジュアル・ベーシック) (6.0) という日本で主流のプログラミング言語に関する調査によると、コンピュータシステムの大概の寿命が2010年頃と予想されるというのである。

これを「VB2010クライシス」と命名し、本連載で、広くこの問題を啓蒙し、該当のシステムを保有している企業や団体に、早期の対策を促したいと思う。

1. 2006年暮れのある食品メーカーでの驚愕のトラブル体験

筆者の仕事は、企業の経営のシステム化を

企画し、その企業に最適なシステムのデザインを提供することです。その中で、2006年の年末に、筆者のクライアントの情報システム部長より緊急の電話が入りました。お歳暮の真只中のこの時期に、生産系のコンピュータがダウンしたので、すぐ、ベンダーに復旧の依頼をしたところ、サーバのサポート切れでサポートできないとの返事があり、あわてて筆者に連絡してきたのでした。

早速、ベンダーの担当責任者に問い合わせたところ、驚くべき回答が来ました。「サーバOSがWindows2000で、DBがオラクル8、しかもソフトウェアはVB (4.0/5.0) で作られているので、メーカーのサポート切れで全くサポート不能です」と言うのです (図1)。筆者はハードやインフラ系が専門ではないので、これから理解するのが大変でした。ハードが古いので、新型に替えるのは当然ですが、DBのオラクル8を最新の10に移行するためには、ソフト自体がVB (4.0/5.0) というマイクロソ

図1 トラブル時の基本システム構成

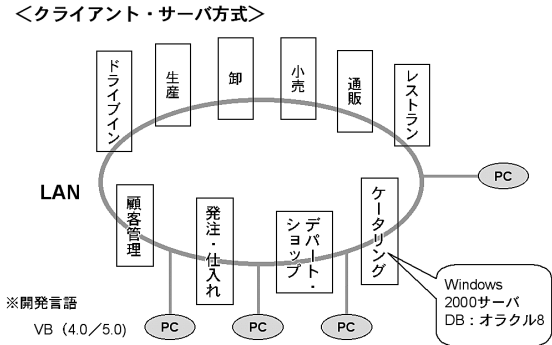
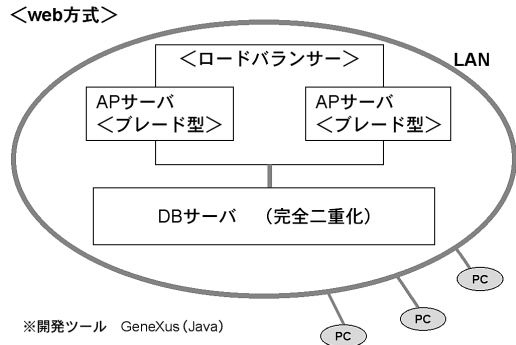


図2 再構築後の基本システム構成



フト (MS) 社のサポート切れの言語では、最新バージョンにコンバージョン (移行) できないということなのです。

説明によると、「まずサーバは、導入後7年以上経過していて、最新型に入れ替えるとしても、ソフトウェアは移行不可能なので、全面再構築になります」ということでした。正直言って驚きました。この事実を業界人の筆者でさえ理解していませんでしたので、クライアントの経営者が全く知らなかったのも無理からぬ話でした。

突然、今利用しているコンピュータシステムがダウンしたと同時に復旧できないと言われ、更にハードもソフトも全面リニューアルになりますと宣告されたら、その企業は大打撃を受け、悪くすると業務マヒにより、倒産という可能性さえある話です。筆者は大変なことがITの世界に隠れていると感じ、ゾッとしました。

2. いかにしてトラブルを乗り越えたか?

まず、この会社に特別な専門家を投入して3日後に復旧しましたので、被害は最小で済みました。次に、二度とこのような事態を起こさないために、全部で10ある事業毎のVB (4.0/5.0) のソフトを全て全面再構築すること

に決定し、更にDBサーバは完全二重化を図り、アプリケーションサーバは、ロードバランサー付きで効率UPを図るという最新構成にしました (図2)。

現在、大半のシステムが最新のブレードサーバに移行して、無事に、この危機を乗り越えることに成功しています。ちなみに、今回はこのような移行に最適なレガシーマイグレーションツールである「GeneXus」の採用で、大幅な工期圧縮と予算削減が実現しました。世の中には、探せば素晴らしいソリューションが見つかるものだと思います。いずれにせよ、この事件から今回のVB2010クライシスを知った訳です。

3. VB (6.0) は何故使えなくなるのか?

まず、最大の要因は、提供元のマイクロソフト社が、サポートを停止したことです。MS社は、web化の潮流の中で世界的に支持された米国サン・マイクロシステムズ社の「Java」言語に対抗する目的で、2002年にweb型開発に適した新言語として「VB.NET」(パイブドットネット) を発表しました。これはweb化という命題を持っていたために、それまでのVB=クライアント・サーバ方式という概念を打ち破る必要があり、結果として、そのア

ーキテクチャーを大きく変えることとなり、それまでのVB (6.0) で開発されたソフトウェアが移行できないという事態になったのです (図3)。しかも、このVB.NETは、従来のVBシリーズとは取扱いが大きく異なったために、大量のVB開発エンジニアをJava系に流出させるという皮肉な結果にもなりました。

いずれにせよ、VB (6.0) は2005年に通常サポートが停止し、この2008年4月に有料の延長サポートも終了してしまいました。

このことにより、今後MS社はこのソフト上のトラブルや他のインターフェース上に必要な様々なパッチ (補修ソフト) の提供をしないので、VB (6.0) で開発された現行のソフトウェアは今後の周辺のシステムプロダクトの進化に対応できず、結果として、いずれ稼働しなくなるという命運にあるのです。

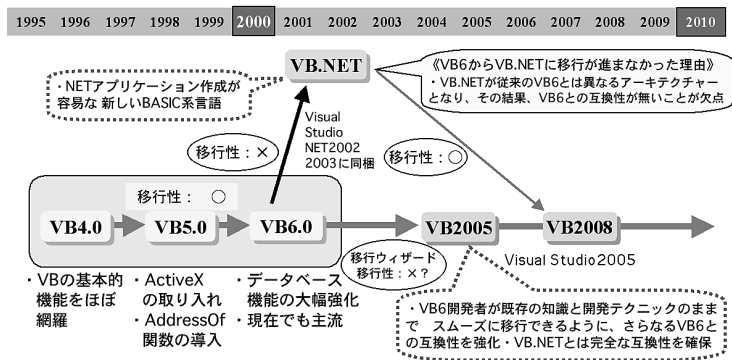
4. 何故この話題が世間に出ないのか?

業界人の筆者も、実際に自分の顧問先のこの事件に遭遇するまで知らなかったほど、この問題は知られていません。そこで、どうしてこのような大問題が世間に知られていないのか少し探ってみました。その結果は、大概、次のような理由に集約されます。

(1) 諸外国の状況

欧米では、UNIXに代表されるオープンサーバ化を日本より5年ほど早い1995年頃より始めていて、それと共に浸透したJavaへの取り組みが早く、2008年の時点では、殆んどweb化が進展し、VB (6.0) ソフトはあまり残ってい

図3 VBの系譜と問題



ないために、日本ほどの問題意識が無いと思われれます。

ちなみに、中国ではVB (6.0) 自体が殆んど知られていません。ただ、韓国は少し日本と似た状況にあるようです。

従って、シリコンバレーのMS本社から見れば、所詮、世界の小さい島国の問題としか映らないのかもしれない。

(2) 日本の現状

では、日本では何故話題にならないのか? 筆者はこれまでの仕事上、殆んどメーカー、ベンダー大手とのコネクションがあるので、何人かの専門家にこの問題を尋ねてみましたが、大概、次の3つの理由が挙げられます。

1番目は、大半の上場企業は、担当しているメーカー (ベンダー) よりの積極提案で2000年以降、急速にweb化が進んでいて、対象となる企業が比較的少ないので問題にならない。逆に、web化がまだ遅れている中小企業や地方自治体系のコンピュータシステムについては、儲からないと思うのか、この問題をキチンと伝えているメーカー (ベンダー) が少ない。どうやらこの問題がユーザに顕在化してから対応する考えらしく、待ちの姿勢であること

が考えられます (図4)。

2番目の理由は、VB (6.0) が動作する環境として、同じMS社のOSであるWindows上では、最新の「2008」までは原則OKであり、DBもMS社のSQLサーバとするオールMS社の構成なら基本的に動くから良いのでは、という安易な見方があります。

もちろん、所詮サポート切れソフトウェアに何の追加対応もせず問題なく運用するのは実際困難なので、筆者は早急な対応をお勧めしますが、楽観論は現に大勢を占めています。

3番目の理由としては、もしこの問題が一斉にVB (6.0) ユーザに知られてメーカー (ベンダー) の対応能力を超えた依頼が殺到すると、かえって混乱し対応しづらくなるという恐れから、PRできないという見方もあります。

しかし、これでは知らないままシステムがダウンして初めてこの問題を知らされて、その費用と移行する時間に耐えられない企業や団体にとっては、大迷惑な話です。

5. どうやって問題のシステムを見分けるのか？

2000年問題はコンピュータ内蔵のカレンダーが1999年までしか用意されていなかったというウソのような単純な問題でした。つまり、従来の汎用機とかオフコンと呼ばれているコンピュータは、基本的にストップするという判り易い話だったのですが、今回の「VB2010クライシス」は、サポート切れの時期と動作に障害の生ずる時期とが別であり、うまく利用すれば2010年を過ぎても稼動するので、何とも判りづらいのです。かといって、

図4 日本のメーカー (ベンダー) の対応は大→中→小

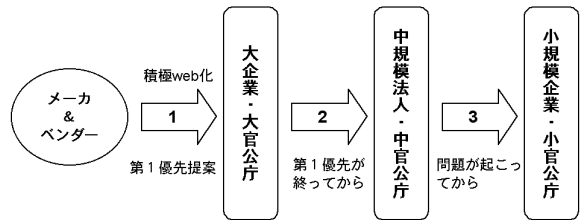
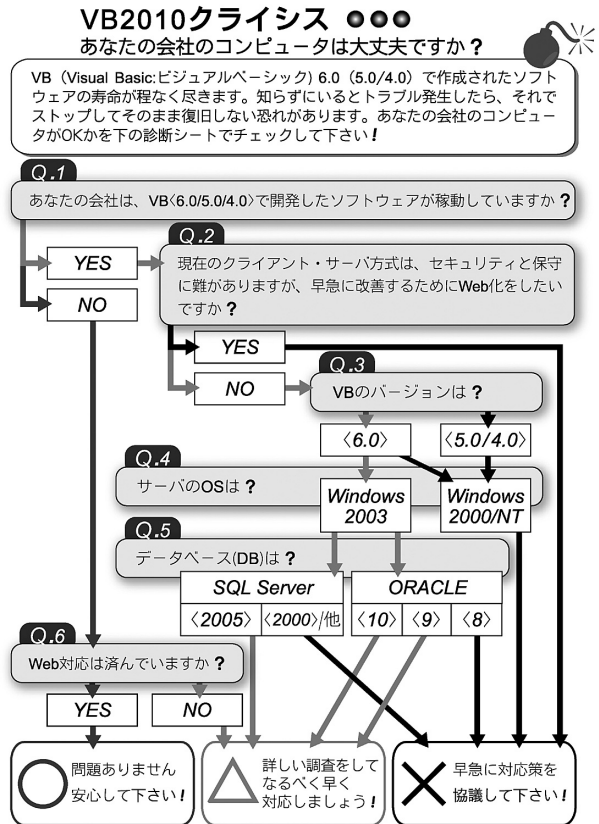


図5 VB2010クライシス診断早見表



何とか見極めないと、コンピュータが突然停止する事態になるだけでなく、システム責任者の首が飛ぶくらいでは済まない企業/団体の存続問題となるほどのリスクなのです。

そこで、筆者が作成した診断早見表により容易に見分けられるようにしましたので、ご利用されているシステムが大丈夫か是非チェックして下さい (図5)。